

筑波大学新聞

第228号

編集責任
筑波大学新聞
編集委員会
委員長 嶺 隆

TEL: 0298(53)2040・2041
E-mail: shinbun@sakura.cc.tsukuba.ac.jp
月刊

発行所
筑波大学
茨城県つくば市
天王台1-1-1

2004年国立大学法人化に向けて

「将来設計」最終報告まとまる

今後10年間の指針

具体案は今後の検討で

2004年度の国立大学法人化に向け、本学の制度設計を議論してきた「将来設計検討委員会」(委員長 北原保雄学長)は、3月20日の評議会で「筑波大学の将来設計」の最終報告を行った。この「最終報告」は法人化後の約10年間の大学づくりの指針となる。昨年11月に公表した骨子で持ち越してこられていた教育・研究組織のあり方については、「個性創出に向けた制度設計」の中で明らかにされている。教職員を対象にした説明会は、4月下旬を予定している。(2面に学長インタビュー、11-14面に「最終報告」全文)

法人化準備委を設置

検討委は、昨年9月に設置されて以来、1年6カ月、計23回にわたって審議を重ねてきた。昨年3月には中間報告を、11月には骨子を発表し、その後も3つの専門委員会と、7つの内部設計作業委員会が細部の検討を重ねてきた。最終報告は、法人化後約10年間を見通した方策を提案しているが、国立大学法人法と関連法案が国会で審議中ということもあり、法人化に関する部分については同日の評議会で「法人化準備委員会」を設置し、教育研究評議会・経営協議会の運営のあり方など具体的な

「個性創出に向けた制度設計」で示された。本学は大学院に重点を置く大学とし、博士課程大学院と専門職大学院に改編、修士課程はいずれかに再編していく。全ての教員は、原則として博士課程、専門職大学院、大学附属の研究所のいずれかに配置する。学系は「学問分野を同じくする教員で構成」され、専門的な立場から、業績審査、企画提言などを行う。学群については、受験生などが、学群制度の中味を理解できるように、第一、第二、第三学群を中心として改組再編を行う。「2 学群」では、教育方法の改善として、ファカルティ・ディベロップメント(教員の資質向上)、学生による授業評価のガイドラインの策定が盛り込まれた。単位互換制度を推進し、セメスター制の導入も検討していく。法人化に対応する制度設計については、主に第2部

法人化後、経営機能(大学本部)と教育研究に係る業務執行機能(部局)は分離する。大学本部は、人事、予算配分などの大まかな基準を決定する。学群やセンターなど各部局は具体的な運営を行い、資源配分は評価に基づいて行われる。「5 勤務条件、勤務等の取扱いは、任期制の全学的な導入についても触れている。任期制は、今まで基礎医学系など一部で導入されていた。将来設計検討委員会副委員長 鈴木久敏企画調査室長(社会工学系教授)の話

2251人が運ぶ

春

番

一



新歓特大号

紙面から

田中耕一さん客員教授に
特集 筑波限定おもしろ研究のすすめ
蹴球部に30歳監督
あなたの学類 どんどこ?
宿舎地区 たばこ自販機を全撤去
(2面学内総合)
(6・7面特集)
(21面スポーツ)
(22面学類紹介)
(23面学生生活)

10,15面

つくばMAP
この地図は抜き出してご利用下さい

16-20面

平成15年度
学類
専門学群
入学者名簿

筑波大学開学30周年
(創基131年)

筑波お孔

松見公園の桜抜き塔や地上19階の三井ビルから眼下を望む。研究学園都市独特の環境がよく分かる。整然と区画され、十字に交わる交差点、東西南北に広がるペDESTリアンデッキ。H-2ロケットが、つくば万博の面影を残す▼無表情な都市に見える一方、緑豊かな木々が筑波山を背に学園全体を覆う。公園や大通り沿いには、必ず街路樹が植えられ、季節ごとに違った風景を描く▼学園都市の中核として本学が誕生し、今年で30年。ソクバは徐々に田園都市を形成してきた。アカマツ林と畑地しかなかったこの地も、再来年の秋には、つくばエクスプレス開業により都心と直接レールで結ばれる。大穂に住むお年寄りは「つくば市に電車が通るなんて、想像できなかった」と話す▼開学当時は、ペデも、街灯も、木も整備されておらず雨が降ると、道路は水浸し。「ジャーシ姿に、長靴と懐中電灯が必携だった」と当時のキャンパスを知る人は口をそろえる。しかし今は新しい建物の建築スペースに困るほどだ。第一学群、体育、医学面専門学群で74年にスタートした本学は、図書館情報専門学群、看護・医療科学類を加え3学群、4専門学群体制となる▼毎年、春に送り出される本学の卒業生は世界各地で活躍する。2251人の新たな仲間を迎えた今日、同じ数の夢と希望が本学に託された。

「学生と一緒に研究も」

任期1年、共同研究で実現

ノーベル化学賞を受賞した田中耕一さん(島津製作所フェロー)が、4月1日付で本学先端学際領域研究(TARA)センターの客員教授に就任することが決まり、2月24日に北原保雄学長を敬訪問した。今回は島津側の要請で、混乱を避けるために学長や副学長、共同研究に関わる一部の教員にしか知らされなかった。



和やかに歓談する田中さん(学長室応接間で)

田中さんは、内田和彦助教授(基礎医学系)らとともに、虚血性心疾患やアルツハイマー病などの高度な診断につなげるための共同研究を進める。島津と内田助教授は、ノーベル賞受賞以前から、共同研究を行っており、今回の就任に至った。

この日は、内田助教授らと打ち合わせをした後、島津製作所の矢嶋英敏社長らとともに学長室を訪れた。自らが編集に携わった国語辞典を田中さんに贈った北原学長は「学生や研究者が自信と誇りをもってこれれば」と田中さん就任の効果を期待した。

都市には島津の研究所があるため、これまでも頻りに来ていた。「特別な印象はないが、中身の濃い研究ができる環境にある」と印象を語った。講義を受け持つ予定を聞かれると、「ノウハウを持ち合わせていないので講義は申し訳ありませんが...。装置の開発や改良で学生と一緒に研究して

いければ」と述べた。また、「ノーベル財団への論文も終わり、今は技術者として、リハビリの最中。ハッピーになりつつある」と話し、周囲を笑わせるなど、会見は終始和やかなムードで行われた。

田中さんがこの程度の頻度で本学に来るかは、今のところ未定。

第三学群と茨城大工学部の単位互換

学期制の違いが壁に

昨年度出願者、本学は1人

大きく影響したようだ。両大学は、昨年6月頃から、単位互換について検討を始めた。昨年2月18日に両学長が協定に調印し、正式決定した。

本学の対象学生は、2年以上の第三学群生。修得した単位は、専門科目または専門基礎科目として認定

茨城大では、自動車工学など、本学に少ない「現場に沿う

される。昨年度は工学部の7学科296科目を対象科目とし、集中授業についても随時掲示した。授業料などは徴収しないが、交通費は自己負担だ。

第三学群長の永井啓之亮教授(機能工学系)は「茨城大では、自動車工学など、本学に少ない「現場に沿う

学問を学ぶことができる。視野を広げるためにも、ぜひ参加してほしい」と話す。今年度については「掲示だけではなく、教員が積極的に参加を促していきたい」と意欲を見せている。

今年度も制度実施について変更点はなく、日程や手続き、必要書類などは、すでに第三学群に掲示されている。なおツインズからの申請はできない。

卒業生代表謝辞では全日本女子大学2連覇の立て役者となった山崎麻子さん(当時体育4年)が「どんな進路を選択したにせよ、自らの能力を一杯発揮することを目標に、しっかりと自分の道を歩んでいきたい」と決意を述べた。

午後には大学院の修士課程修了者923人、博士課程修了者432人の学位授与式が行われた。また、3月24日には医療技術短期大学の卒業式が行われ、116人が巣立っていった。



「自分の道を歩んでいきたい」と謝辞を述べる山崎麻子さん(大会館で)

巣立ちの春

平成14年度の学類・専門学群と理療科教員養成施設の卒業式が、3月25日午前10時から大会館講堂で行われた。北原保雄学長が各学類・

専門学群の卒業生代表者16人に学位記を、理療科教員養成施設の代表に卒業証書を、それぞれ授与した。

北原学長は式辞の中で「卒業は人生の区切りのひとつ。これを出発点として一層の研さんをし、大成してほしい」とエールを贈った。

卒業生代表謝辞では全日本女子大学2連覇の立て役者となった山崎麻子さん(当時体育4年)が「どんな進路を選択したにせよ、自らの能力を一杯発揮することを目標に、しっかりと自分の道を歩んでいきたい」と決意を述べた。

午後には大学院の修士課程修了者923人、博士課程修了者432人の学位授与式が行われた。また、3月24日には医療技術短期大学の卒業式が行われ、116人が巣立っていった。

全体の構想は示せた

「将来設計」最終報告を語る

「しっかりと舵を取らなければ、競争という厳しい環境の中で筑波大学丸は沈没する」。筑波大学の将来設計「最終報告」によって10年間の基本姿勢が定まった。法人化まで残り1年、北原保雄学長は舵取りの決意を語った。(本紙・田中備憲(社会学類))

国立大学法人化を来年度にひかえ、競争的環境の中に置かれるという状況で、本学のグランドデザインを描く必要があった。「将来設計検討委員会」では、学長自ら委員長となって、今後10年間の筑波大学の「特色」とは。

まず、大学院に重点を置いて大学になるというこ

と。私の学生時代、大学院は稀少な存在だった。しかし、現在は大学・短大進学率が5割に達し、大学院進学率も高くなっている。10年後には、大学院修了が当然、という時代になるだろう。本学は先陣を切っている。

学群教育については、もちろん学群教育は大切にする。教養教育を強化したい。現在のナンバー学群は、それぞれ文理混合の体制をとっているが、学問分野の近接類似した学群の構成にする必要があるだろう。

法人化後は、教育面も含め評価が重要になる。今年度から、ツインズを使って全学的な規模で学生による授業評価を実施したい。

これまで以上にリーダーシップが求められます。常に危機感を持って取り組んでいる。今年法人化直前の1年なので、いっそう気を引き締め、具体案を検討していく。

研究型の大学院大学へ



北原学長

大学院がしっかりとした研究型の大学を目指す。

大学院は、博士課程と専門職大学院という構成になる。専門職大学院は、ロースクール、ビジネススクールなどが案として挙がっている。

法人化後は、教育面も含め評価が重要になる。今年度から、ツインズを使って全学的な規模で学生による授業評価を実施したい。

これまで以上にリーダーシップが求められます。常に危機感を持って取り組んでいる。今年法人化直前の1年なので、いっそう気を引き締め、具体案を検討していく。

前期は3.8倍 後期10倍

図情 志願者数変わらず

15年度入試

各学類・専門学群の志願倍率一覧	学類	前期倍率		後期倍率	
		前期	後期	前期	後期
第一学群	人文	3.9	11.9		
	社会	6.1	10.2		
	自然	3.4	9.8		
第二学群	比文	3.3	10.7		
	日・日	5.6	11.9		
	人間	4.1	11.7		
第三学群	生物	4.1	6.4		
	資源	2.8	8.1		
	社工	3.1	6.4		
	国際	6.4	9.9		
	情報	3.3	5.2		
	工シス	3.1	6.7		
	工基礎	3.6	11.0		
医学	医学類	4.0	13.7		
	看護	2.2	5.6		
体育	看護	4.5	11.4		
	医療	4.3	17.5		
芸術		3.6	18.9		
	図情	3.2	9.7		

前期が国際総合学類(6.4倍)、後期は芸術専門学群(18.9倍)だった。

今年度から学生の受け入れになった。これは主として学

前期日程の1日目は、前日降った雪のため朝の気温は氷点下だった。試験後の受験生のコメントでも「寒い」という声が多かったが、交通機関に支障もなく試験は予定通り行われた。

全体の志願倍率を見ると、前期日程は、昨年より3.8倍、後期日程は0.6ポイント増加し10.0倍となった。倍率のトップは

小林信明氏(こばやし・しんめい)東京教育大名誉教授)3月5日死去、96歳。喪主は妻初子さん。自宅は東京・新宿区下落合4-3-17

臨時入構証値上げへ

夜間は取り締まり強化

駐車場問題

駐車場の臨時に利用する人が負担する臨時入構証の会費が5月1日から改定される。1日利用者は現行50円から100円に、1週間の場合、同100円から200円に値上げされる。一方、夜間と土日、祝祭日に限って利用する際は「臨時入構者の交通安全会費は1ヵ月当たり3000円から1000円に値下げされる。」

3月18日の交通安全会理事会で承認され、近く学長の承認を受けて実施される。理事会で富江伊治理事長(学生生活担当副学長)は「学生生活担当副学長」が「臨時入構者の交通安全会への入会を促し、臨時入構者数を減少させたい」と会費改定の理由を説明した。

交通安全会がまとめた昨年度の臨時入構証の利用状況によると、学生は昨年5月、3208人が利用していたが、その後、増加傾向が続き、今年1月には9960人に増えている。

こうした現状を踏まえて石田東生理事(社会学系教授)は「値上げによって臨時入構者が減少するかどうか不明だ。もし効果がなければ、再度の値上げもあり得る」との見解を示した。

総合研究棟Aが完成

医学食堂、芸バチも一新

キャンパスリニューアル

キャンパスリニューアル事業の柱となっている4つの総合研究棟、体育総合実験棟の建設。その先駆けとして、一昨年から建設が進められていた総合研究棟Aが完成した。春休み中には医学食堂や芸術学生控室など、学内各所でリニューアル工事が行われた。生まれ変わったキャンパスが新入生を迎えている。

■総合研究棟A
生命環境科学研究科に対応する総合研究棟Aの完成記念式典が2月17日、同1階は全学共用スペースとして、公募で決定した2つの研究で使用する。公募は1月に行われ、応募した6件の中から深水昭吉教授(応用生物化学系)と杉田倫明・助教(地球科学系)の研究に決定した。

■食堂、学生控室
4月上旬、リニューアルした医学食堂、芸術学生控室(芸バチ)が目見え、体芸食堂3階の体芸カフェが正式にオープンする。

医学食堂ではイスやテーブルなどインテリアを一新した。中央には、約15人で座れる大テーブルを設置。食堂南側の松の木は伐採され、テラスに変わった。体芸棟2階の芸術学生控室はリニューアル後、部屋全体を白で統一する。芸術各コースの学生・教員が、白で表現したA4サイズの作品を壁に張り付け、完成する。天井の高さも約80センチ高くなり、全体が広くなった印象を与える。



完成した炭窯に火入れする(野性の森で)

1月から仮オープンしていた体芸カフェは、インテリアを一新した。メニューも有機栽培の野菜など厳選された素材を用いたワンプレートディッシュなどを展開している。

その他、野性の森では陶窯と炭窯が設置され、3月19日には火入れ式が行われた。また、図書館北側のペデストリアンデッキ、医学専門学群前のバス停と大学病院を結ぶ副空間軸(サブペデ)設置の工事が行われた。

図書館情報大との統合を機に発足した知的コミュニティ・基盤研究センターの開所記念シンポジウム「インターネットとコミュニケーション」が3月17日、春日キャンパスのメディアホール(情報メディアユニオン2階)で開催された。講演やパネルディスカッションに学内関係者や関係大OBなど約100人が参加した。

知的コミュニティ・基盤研究センター

開所記念シンポジウム開催

東大・水越助教授が講演

初めに北原保雄学長が「本センターには、多様な社会と本学とを結ぶ結節点として機能することを期待したい」とあいさつを述べた。

その後、東京大学大学院情報学環助教授で、本学比較文化学類OBの水越伸氏が「メディア・ピクトグラム試論―新しいメ

水戸で企業化交流会

リエゾンに引き合い

本学と茨城県内の中小企業との交流を図り、研究成果の企業化を目的とする研究成果企業化促進交流会(主催：産学リエゾン共同研究センター、茨城県)が2月14日、水戸市三の丸の三の丸ホテルで行われた。県内各地から、66社、113人が参加した。交流会は、学内各都市以外で行うのは今回が初めて。発光ダイオード関連の県内企業がリエゾンに、研究室の紹介を依頼するなど、好反応も見えた。

高木英明副学長(研究担当)による挨拶と村上和雄・本学名誉教授の基調講演の後、3人の教員が技術シーズの発表を行った。物理工学系の伊藤雅英・助教は、入れ墨やあざの治療を行う時、肌の色と違和感なく皮膚を再生するのに役立つ色の分析法について発表。電子・情報工学系の西原清一教授は、複雑な立体を復元するソフトウェアを紹介した。芸術学系の蓮見孝教授は、ユニバーサルデザインについて発表。特殊な車輪を用いることで前後左右の移動を可能とし、座席の上下動が電動で同時に行える車いす「4ch(ヨンちゃん)」に乗って実演した。写真。



特殊な車輪を用いることで前後左右の移動を可能とし、座席の上下動が電動で同時に行える車いす「4ch(ヨンちゃん)」に乗って実演した。写真。

田理事は「学生が入構証に割高感を持っていることと夜間の取り締まりがないためではないかと分析する。大嶋理事は「夜間の入構証を値下げすれば、駐車場利用者が増え、違法駐車が減るのではないか」と値下げを提案した。今後は、夜間の取り締まり強化のため、警備会社との契約を見直しに行く。

5月には一ノ矢地区、医学地区、本部棟南の3地区の駐車場がゲート化されることが決まっている。



知的コミュニティ・基盤研究センターの開所記念シンポジウム「インターネットとコミュニケーション」の様子。

タル研究会理事長の小林是綱氏や日本IBM東京基礎研究所主任研究員の野美山浩氏ら、4人をパネリストにパネルディスカッションが行われた。

同課は「手術後ミスが正確に判明したため、男性にはすぐに謝罪した。補償交渉を進めてきたが、合意に達しなかった。こちらの過失は明白なので、訴訟では誠意を持って対応していきたい」と話している。

新任人事表 (4月1日付)

【附属図書館】 附属図書館長 林史典(文言)	システム情報工学研究科長 西村仁嗣(機能)	電子・情報工学系長 平井有三(電情)	社会医学系長 中谷陽二(社医)
【附属病院】 附属病院長 山口巖(臨医)	生命環境科学研究科長 田中秀夫(応生)	【センター】 外国語センター長 安井泉(現現)	農林技術センター長 餅田治之(農林)
【学校教育部】 学校教育部長 谷川彰英(教育)	経営・政策科学研究科長 糸井川栄一(社工)	加速器センター長 工藤博(物工)	プラズマ研究センター長 徳増征二(生物)
【教育組織】 第一学群長 本橋信義(数学)	理工学研究科長 植寛素(質工)	菅平高原実験センター長 長照二(物理)	留学生センター長 安部征雄(農工)
第二学群長 太田信夫(心理)	環境科学研究科長 佐藤俊(歴人)	遺伝子実験センター長 藤村達人(農工)	アドミッションセンター長 山根一秀(臨医)
自然学類長 滝川紘治(物理)	歴史・人類学研究科長 片岡一忠(歴人)	学際物質科学研究センター長 赤木和夫(質工)	【附属学校】 附属中学校長 阿部生雄(体育)
社会学類長 佐藤亮(社工)	社会科学部研究科長 出口正義(社会)	附属桐が丘養護学校長 千田捷熙(学教)	
医学類長 中山凱夫(臨医)	社会工学研究科長 山本芳嗣(社工)		
看護・医療科学類長 細谷安彦(基医)	生物科学研究科長 沼田治(生物)		
大学院修士課程長 藤井宏一(生物)	数学研究科長 伊藤光弘(数学)		
大学院博士課程長 田仲可昌(生物)	物理学研究科長 三明康郎(物理)		
人文社会科学部研究科長 事務取扱(副学長)	地球科学研究科長 指田勝男(地球)		
数理物質科学研究科長 細見彰(化学)	工学研究科長 浅野侑三(物工)		
	【研究組織】 心身障害学系長 中村満紀男(心障)		
	社会科学系長 鳥越皓之(社会)		
	応用生物化学系長 東照雄(応生)		

パキスタン出身グラームシャビールさんに聞く

対イラク戦争と 筑波

「これは大義なき戦争」

国・宗教を超え連携を



米英軍は3月20日、イラクへ軍事攻撃を開始した。国連の承認なしで踏み切った行動に、世界各国で反対の声が高まった。イスラム教国・パキスタン出身のグラームシャビールさん(数理論物理学研究科4年)は、ブッシュ政権の決断が、国際秩序に及ぼす影響を指摘する。(本紙・沼尻知子比較文化学類)

アメリカは、イラクが大規模破壊兵器を持ち、攻撃する可能性があるという理由だけで攻撃に踏み切った。将来、このような大義なき戦争が正当化されてしまう恐れがある。その責任は大きい。アメリカは、結果的に国連にすら従わなかった。もはやどの国もアメリカを止めることはできないだろう。何百人ものイラク兵が死んでも、アメリカはそらぬ顔をする。だが、アメリカ兵が大勢死んだら、そうはいかない。アメリカには「自分たちは特別だ」という意識がある。アメリカの外交には、合理性を求め、あまりに人間性が欠落している。私たちは皆、同じ人間。違う国に住み、違う宗教を信仰している。もっと人間性、多様性を大切にすべきだと思う。

日本人の反応についてはどう思いますか。日本では大きなデモはなかった。しかし、それは日本にデモの文化がないだけではない。日本も平和を考えている。ただ、平和を訴える方法が違うのだろう。私たちがすべきことは、

遠藤誉教授ら本学関係者15人 学力調査 国際比較 大学生、院生対象に 6カ国の理系を調査

工学系(写真)をはじめ本学関係者15人が参加することになった。世界の大学生の学力の現状を把握し、日本の大学生の学力問題について提言することを目的としている。

本格的に活動開始 留学生後援会 留学生の支援を目的と(理事長)富江伸治・学生会(理事)山本浩一が中心となり、昨年9月設立された「筑波大学外国人留学生後援会」の活動が本格化した。

留学生後援会(理事長)富江伸治・学生会(理事)山本浩一が中心となり、昨年9月設立された「筑波大学外国人留学生後援会」の活動が本格化した。

留学生後援会(理事長)富江伸治・学生会(理事)山本浩一が中心となり、昨年9月設立された「筑波大学外国人留学生後援会」の活動が本格化した。

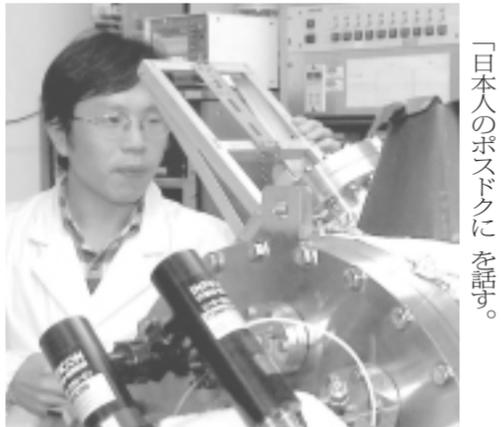
証 筑波の国際性

8

物質工学系の小島誠治教授は、1994年に助教になり、研究室を持った。その後、採用したポストドクトラル(通称ポスドク)は5人。国籍は中国3人、韓国1人、ポランド1人で、全て海外からのポスドクである。

外国人ポスドクの採用

小島教授は日本人ポスドクに目を向けず、外国人研究者を雇おうとする。何故だろう。ポスドクとは、いわば「見習い」研究者。多くは博士課程を終えたが、適当なポストがないため研究室の下働きをしながら業績を挙げ、研究者を目指す者とする人たちだ。本学には75人のポスドクがいるが、うち17人が外国人だ。



長谷川研究室で働くポスドクの李成さん

長谷川文夫教授(物理工学系)はこう言う。工学の分野では、大学院卒業後、研究者への道を選ぶのが一般的だ。そんな中、88年、「外国人特別研究員」制度を立ち上げた。ポスドクを採用する時、最初から国内には目を向けず、外国人ポスドク採用を希望する研究者は、学振に申請する。審査を通過すれば、学振からポスドク契約終了後、担当教員が支給される。外国人ポスドクの採用を促すとする国の政策である。

外国人ポスドクの意識 長谷川教授は「理化学系では余っているが、工学系では慢性的に不足している。日用的に不足している。日本人のポスドクについて、彼らは契約終了後、母国に戻れば安定した身分が保障されている。日本人のポスドクに話を。」

留学生の目 タン・ジンニー 私の友達は私を「お菓子ガール」と呼びます。なぜなら私はお菓子が大好きだからです。たしかに日本のお菓子のラベルを読めるようになるという目標の一つです。私はこんな小さな夢のために日本へやってきました。



四季感じるつくば 味わい深く離れがたい 混声合唱団以外のいくつかの活動にも私は参加しています。例えば、たまりに水泳やダンスの練習に参加したりします。

少ないリスク、高い意欲

「理化学系では余っているが、工学系では慢性的に不足している。日用的に不足している。日本人のポスドクについて、彼らは契約終了後、母国に戻れば安定した身分が保障されている。日本人のポスドクに話を。」

外国人ポスドクの意識 長谷川教授は「理化学系では余っているが、工学系では慢性的に不足している。日用的に不足している。日本人のポスドクについて、彼らは契約終了後、母国に戻れば安定した身分が保障されている。日本人のポスドクに話を。」

外国人ポスドクの意識 長谷川教授は「理化学系では余っているが、工学系では慢性的に不足している。日用的に不足している。日本人のポスドクについて、彼らは契約終了後、母国に戻れば安定した身分が保障されている。日本人のポスドクに話を。」

外国人ポスドクの意識 長谷川教授は「理化学系では余っているが、工学系では慢性的に不足している。日用的に不足している。日本人のポスドクについて、彼らは契約終了後、母国に戻れば安定した身分が保障されている。日本人のポスドクに話を。」

外国人ポスドクの意識 長谷川教授は「理化学系では余っているが、工学系では慢性的に不足している。日用的に不足している。日本人のポスドクについて、彼らは契約終了後、母国に戻れば安定した身分が保障されている。日本人のポスドクに話を。」

外国人ポスドクの意識 長谷川教授は「理化学系では余っているが、工学系では慢性的に不足している。日用的に不足している。日本人のポスドクについて、彼らは契約終了後、母国に戻れば安定した身分が保障されている。日本人のポスドクに話を。」

「筑波マイスター群像」と題し、学生や教員からの注文に応じ実験器具などを製作する技術専門職員取材した。写真は金属加工の内田豊春さん。「技官は料理人と同じ様に感性が求められる。…ファーストフード店の、マニュアルめいた仕事とは違う」



刃物選びに光る技 (第224号・2002年10月21日、6面)



大学構内に移動交番 (第228号・2003年2月10日、1面)

平砂共用棟前に今年2月1日、移動交番が設置された。学内外で多発する犯罪に対処するため、つくば中央警察署が本学に申し入れ、大学側が応諾した。学内自治のあり方をめぐって、一石を投じた。

—筑波大学新聞綱領—
1975年5月制定

- ・新大学にふさわしい学風の高揚と高い大学文化の創造に貢献することを目的とする。
- ・言論の自由を守り、政治的思想的に中正公明の立場を堅持し、全大学人の立場に立って真実を追求し、これを報道する。
- ・大学の教員、職員、学生が参加するコミュニケーションの場であると共に、広く大学と社会の交流の場とすることを旨とする。

出合いを伝える

現地取材で選手と共に喜び、感動を分かち合う。警察に足繁く通い、名前を覚えてもらう。先生と仲良くなり、とびきりの情報を掘り起こす——
取材はまさに出会いの連続。そうして得たニュースを、私たちは伝えています。

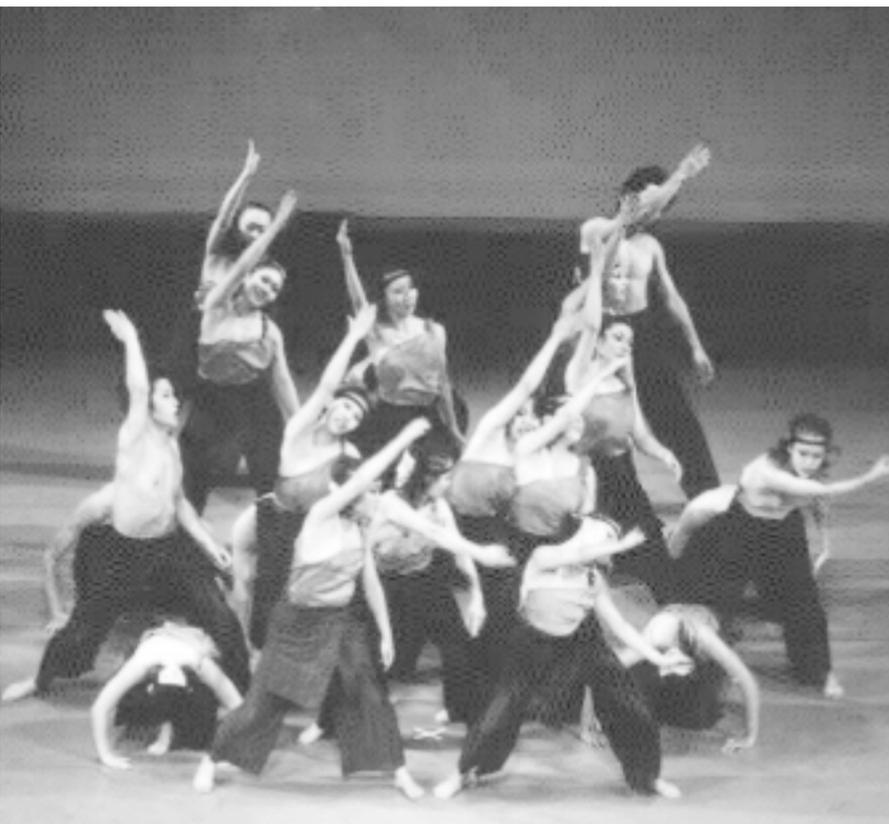
筑波大学新聞は、筑波大学新聞綱領に基づき、取材、原稿執筆から紙面編集・整理まで、全て学生の手で行っています。今年度も年8回発行、毎号1万2千部(4月号のみ1万3千部)印刷。ご意見、情報、ご感想をお気軽にお寄せください。

編集室：共同研究棟A-104

電話：029-853-6699

e-Mail：shinbun@sakura.cc.tsukuba.ac.jp

筑波大学新聞

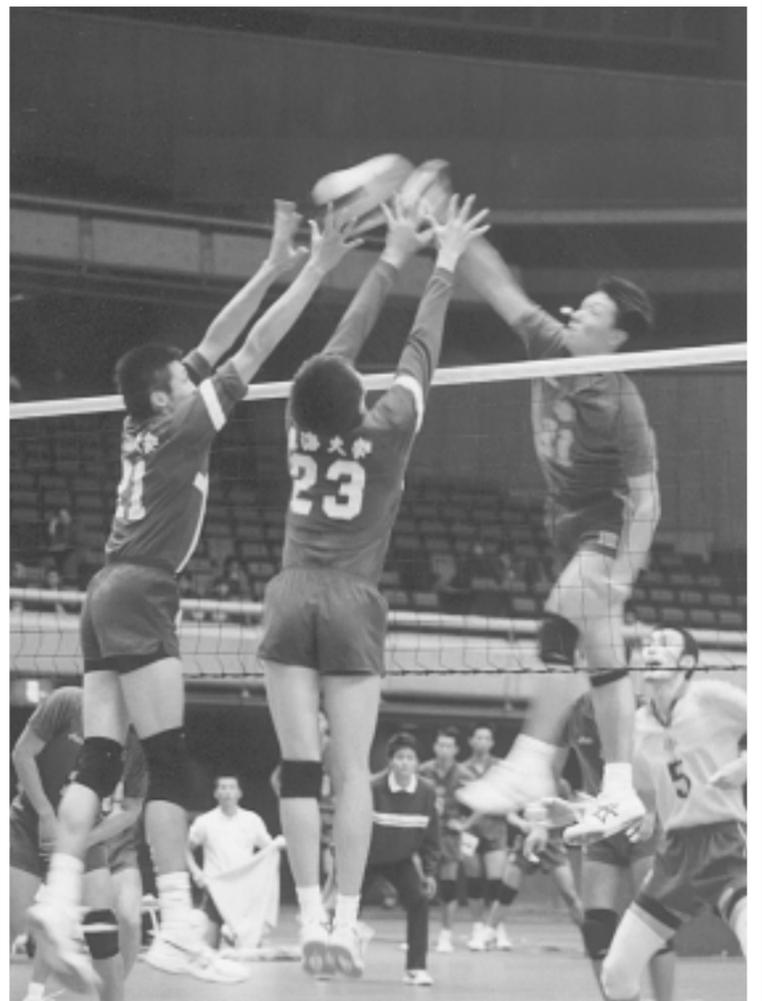


踊りの原点問う迫真の舞台 (第223号・2002年9月9日、1面)

本学ダンス部は第15回全日本高校・大学ダンスフェスティバル(昨年8月1-3日・神戸文化ホール)で2年連続して文部科学大臣賞を受賞した。現地取材に行った本紙編集部員は、写真撮影を忘れ何度も見入ってしまったという。

史上初の6連覇を果たした。その瞬間、本紙編集部員は思わず選手の元へかけよった。

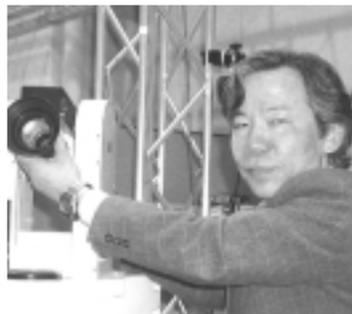
史上初の6連覇 (第226号・2002年12月16日、6面)



おもしろ研究のすすめ

最新のコンピュータ技術を駆使して研究に励む人もいれば、はるか古代の歴史に想いを馳せ、見つめ直している人もいる。
 新入生の皆さん、入学おめでとう。ここ筑波大では、様々な興味深い研究が行われている。授業を選ぶ時、将来専攻を決める時など、役立つかもしれない。そんな筑波限定の研究者を紹介します。(本紙・山口圭一「社会学類、中村あい、沼尻知子」比較文化学類、伊木緑、中村詩織「国際総合学類」)

画像処理 大田友一 教授



数人の建築家が集まり、ビルの模型も設計図も無高層ビルの設計について話している。ただ皆、頭部に大きなし合っている。机の上には、Googleのような物を装着しているだけだ。
 このGoogleはHMD(頭部装着型ディスプレイ)と呼ばれるもので、これを通して共通のビルのCG模型を見ている。しかも会議を進めながら、好きなよ



HMDを装着した実験 (TARAセンター)

CG世界自在に操る

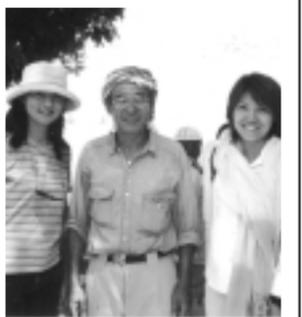
コンピュータの仮想世界と実際の現実世界とを融合

させたこの状態を「複合現実空間」と呼ぶ。研究を行っているのは、大田友一教授(機能工学系)と写真上川だ。
 このHMDには、ビルの模型のようなコンピュータで作られた画像情報が内蔵されている。装着すると、それが目の前に呼び出され、加工も自由自在だ。会議では画像を複数の人と共有することもできる。この場合は「協調型複合現実空間」と呼ばれている。
 大田教授はこの空間の問題点を気付いた。頭部のHMDが邪魔をして、人々はアイコンタクトを取ることができないのだ。これは、CG画像を共有しても、コミュニケーションに支障が出る。

そこでHMDに相手の視線を認識、表示させるシステムを取り付けた。これによってビルの設計を話し合う時、お互いの顔にHMDが無いかのような会話ができるようになった。
 将来、このHMDを使って、医師が手術前に患者の体内の状態を把握したり、災害時には救助隊が崩壊したビルの下敷きになっていない人々を発見するなど、さまざまな応用が可能になるという。

学会でこの研究を発表するうちに共鳴者が増えた。最近海外で講演会を開けば会場が満席になるほど。大田教授の研究の一端は「画像処理」(工学システム学類)などの授業で垣間見ることが出来る。

考古学 川西宏幸 教授



エジプトで発掘仲間と(中央が川西教授)

エジプトに腰を据えて

ナイル川のほとりには、アクリス遺跡で調査を行っていた川西宏幸教授(歴史学系)の発掘現場がある。ここから当時の人々が行っていた日常生活の一端を垣間見ることが出来る。一つは、当時のエジプト人の精神生活についてだ。ミイラと一緒に棺に納められた土製品や、祭られていた猫のミイラが発見される。川西教授が初めてエジプトを訪れたのは1980年。以来、23年間、夏休みを利用して、他大学の研究者や大学院生と共同で発掘調査を続けてきた。
 アクリスは、テラベヤカイロに比べ、規模が小さく、辺境の地にある。しかし、紀元前2400年から紀元前700年までの3千年間、ナイル川周辺で展開された抗争、統一などエジプトの歴史を見つめてきた町だ。「一つの地に腰を落着けて歴史を見る。そんな考古学がやりたかった」という川西教授にとって、まさにびつりのフィールドなのである。
 そんな歴史観を育んでくれたのは「大学1年の時に読んだ島崎藤村の『夜明け前』だった」というから、ちょっと意外だ。
 川西教授は「日本研究入門演習」(比較文化学類)などの授業を受け持つ。アクリス遺跡の発掘

川の地形学 池田宏 助教授

大学の北側、西ループの建物が見える。陸域環境研究センターの大型水路実験

定説覆す140m水路

この施設は1978年に完成した。池田宏・助教授(地球科学系)のたつての希望が日立造船の協力を得て実現したのだ。砂と砂利

を混ぜ、循環させる「砂利プラント」を併設したことによって、世界に類をみない高性能の研究設備となった。建設からすでに20余年を経たが、いまでもさまざまな実験に堪えている。
 実験では、水路の底の砂や石、砂利の割合、流水の強さ、この配を養って、実際の河川で起こっている浸食や運搬などの自然現象が人工的に再現される。データを集め、解析した結果、従来の定説が覆されることもある。

例えば、河川の下流で土砂が堆積する際、教科書では普通、「粒の細かい砂ほど遠くまで流れる」と説明されている。だが実際は、石の間に砂が引っかかり、表面が平らになるため粒の粗い石の方がより遠くに流れる、という正反対の現象が起るのだ。

大型水路と池田助教授(陸域環境研究センター)

池田助教授は東京教育大

日高健一郎 教授



現在、世界各地に730の世界遺産がある。人類共通の宝物だが、多くは、どう維持するかという深刻な問題に直面している。建築学の分野から世界遺産の保護、修復を目指しているのが日高健一郎教授(芸術学系)だ。

人類の歴史どう残す

ドーム建築では最高峰とされ、見事な景観が人々の心を引きつけてきた。しかし、老朽化は急ピッチで進んでいる。数度にわたる崩壊と再建でドームの歪みは想像以上だ。
 いま、地上と高さ約40メートルの2つの地点から写真を撮って、等高図を作ってみる。本来、正円になるはずだが、ドームの歪みから等高線は曲がりくねった円になる。見た目の美しさに重点を置いた設計が、構

「昔の建物を調べていると、人が作った過程そのものが垣間見える。謎めいた箇所も多く、おもしろ」と世界遺産の魅力を話す。目下、大学院修士課程に世界遺産に関する専門課程を作るため奔走している。総合大学の特色を活かして、文化から経済、国際関係まで、広い視野から研究しようという大学の試みだ。



修復調査の様子(ハギア・ソフィア大聖堂)

修復調査の様子(ハギア・ソフィア大聖堂)

「元気ちゃん」と減塩マーク

協和町が採用 関森、安デザイン

茨城県協和町と本学教員が共同で展開している「減塩」を呼びかけるマークのデザインを2月、学内で公募した。合わせて約1000点の応募があり、その中から関森彦さん(芸術2)



健康キャンペーンは、平成14年度筑波大学学内貢献支援事業の一環として行われ、協和町役場と磯博康教授(社会医学系)など医学系の教員、田中佐代子講師(芸術学系)らが参加している。協和町は、20年以上減塩運動を推進してきた実績がある。

群 芸術研究科などの学生からデザインを募り、磯教授、田中講師、同町保健センター職員が審査した。関さんがデザインした「元気ちゃん」は、協和町の頭文字「K」を基に太い曲線で描かれている。公共性や長く使用されることを重視し、暖色でシンプルにまとめた。大きく開いた口、輝く瞳、ジャンプする姿は子どもの元気さや明るさを表している。関さんは高校時代、デザイン科に所属していた。「採用されて驚いた。いかにシンプルにデザインしたのかを評価している。」



書道の作品に見入る観客(つくば美術館で)

芸術卒業制作展・修了展 各専攻の力作ズラリ 5000人の観客を魅了

大学における芸術活動の集大成を披露する平成14年度芸術専門学群卒業制作展と芸術研究科修了展が、つくば美術館で開催された。期間は卒業制作展前期展が2月11日から16日まで、後期展が18日から23日、修了展は25日から3月2日までだった。

前期(洋画・日本画・版画・彫塑・書・染芸・総合造形)と後期(構成・視覚伝達デザイン・生産デザイン・環境デザイン・建築デザイン)に分けられた卒業制作展には、10コースと2特別カリキュラムから計107人が出展。修了展は、美術専攻4分野とデザイン専攻6分野から57人が出展した。

原点

随分若い時から「自分」と自問自答を繰り返している。特に高校の時には人生論と題の『人間の条件』というタイトルの本を知ったのも高校の時であった。この本なら、自分にとっての人間とは何者か、何を学ばなければならないか、何を教えるべきか、早稲田大学で経済学を学んでいる。なぜ今の私がいるのか、その原点を探してみたい。目の前の小さな夢を、英語を話せるようになりたい。

自問続ける「なりたいたい自分」 多くの人が夢を託され



山田 直志

職業に感謝しているけれども、固執するほど惨めな人間になりたいとは思わない。自分の勉強嫌いが理由だろつけれども、どれほど人生論と名のついた本を読んでも、一向に素晴らしい人間になれたとは思えない。今では、人生をどのように生きるのか、などと書かれている本をみると吐き気がする。アメリカの学生や先生方のおかげだと思っている。これまでに会った多くの人が私に夢を託してくれた。その人たちの夢を今も背負っている。今は、これまで巡り会った人たちの夢を、そして

私の夢を皆さんに託すことだと思始めている。もう十分に自分の能力以上のことをしてきた。私の学んだことで人生を楽しくする方法は、ぎりぎりまで夢を諦めないこと。挑戦相手は自分であること。人間を愛すること。感謝の気持ちを持つこと。あとは、素直に涙を流せる人間になること。(社会学系教授)

やまだたかし 社会学系教授、1994年生まれ。米国ニューヨーク市立大学大学院卒。専門は応用ミクロ経済学及び医療経済学。個人のリスクに対する考えがどのように医療需要に影響するかを明らかにしようとする研究している。

私の

研究者としての社会貢献

An Introduction to Database Systems

C・J・デイト著



石塚 英弘

多くの本の中から一冊のみを選ぶのは難しい。そこで2つ挙げることにした。見出しに示したデータベースの本(C・J・デイト著、以下・甲)と石塚喜明著「生命を支える農業」(日本の食糧問題への提言)(北海道大学図書刊行会、以下・乙)。

甲はその道の専門家にならうとする人のための本であり、乙は一般の人向けの本である。この2つの共通点は「研究者としての社会貢献」である。甲も乙も著者は著名な研究者であり、この本を書き出すことにより社会に貢献した。なお、欧米では研究者が自分の得た知識を公に伝えることは使命とされており、その実行を修了した私もこれを読んだ。

甲はデータベースの世界を知り、その応用を専門にするようになった。この本は学術書でもなければ専門書でもありません。目的は消費者の皆さんが生きていくために食べなければならない農産物は、次々と発展するデータベース分野の最新状況を読者の人たちに届けていくことに苦勞して生産されてきたか、また生産されているかを理解していただき、食物を大切にしたい。きたいとお願ひするため書いたものです。また、この本の紹介によれば、著者は、70年にわたる農学研究に携わってきた「農学」であり、「日本の農業の未来を憂いて語りかける農業の使命」とある。知識を与えたいというよりも読者に考えさせる本である。この本が出版された2001年の時点でこの著者は94歳だから研究者としての最後の社会貢献、遺言と云えるのではないかと。(図書館情報学系教授)

筑波大学芸術賞「高業(生産デザイン)」、田村夏美(環境デザイン) 研究科長賞「野上正師(建築デザイン)」、白木淳子(洋画)、「岡美江(彫塑)」、小野五絵(構成)、「洞田和伸(総合造形)」、野原雅史(環境デザイン)、「李錫賢(環境デザイン)」、田岡博之(環境デザイン)、「石井海」

筑波大学芸術賞「高業(生産デザイン)」、田村夏美(環境デザイン) 研究科長賞「野上正師(建築デザイン)」、白木淳子(洋画)、「岡美江(彫塑)」、小野五絵(構成)、「洞田和伸(総合造形)」、野原雅史(環境デザイン)、「李錫賢(環境デザイン)」、田岡博之(環境デザイン)、「石井海」

象を広げた。開会式で高木英明副学長(研究担当)は、交流を通じて、視野を広げ、学内外の期待に応える技術を獲得して欲しい」と挨拶した。午前は須藤伝悦・技術専門職員(人間総合教育研究支援室)など12人が日頃の活動を発表した。午後は、加速器センター長の古野興平教授(物理学系)、土屋泰孝・技術専門職員(下田臨海実験センター)の特別講演が行われた。

「日本南極越冬隊に参加して」と題した講演を行った土屋さんは、南極の体験を写真を見せて紹介した。水温が氷点下の海に潜り、水

中の生物を採集した経験や、息抜きに氷点下27度の雪中で流しそつめんを行っていた話に40名あまりが熱心に耳を傾けた。

口頭発表に併せて、ポスターセッションも行われた。

第2回技術職員技術発表会

本学の研究、教育を支える技術職員の相互交流を図る「第2回筑波大学技術職員技術発表会」が3月18日、

大会会館の特別会議室を主会場に行われた。昨年度は、第三学群の職員が対象だったが、今年度は全学群に対

象を広げた。開会式で高木英明副学長(研究担当)は、交流を通じて、視野を広げ、学内外の期待に応える技術を獲得して欲しい」と挨拶した。午前は須藤伝悦・技術専門職員(人間総合教育研究支援室)など12人が日頃の活動を発表した。午後は、加速器センター長の古野興平教授(物理学系)、土屋泰孝・技術専門職員(下田臨海実験センター)の特別講演が行われた。

「日本南極越冬隊に参加して」と題した講演を行った土屋さんは、南極の体験を写真を見せて紹介した。水温が氷点下の海に潜り、水

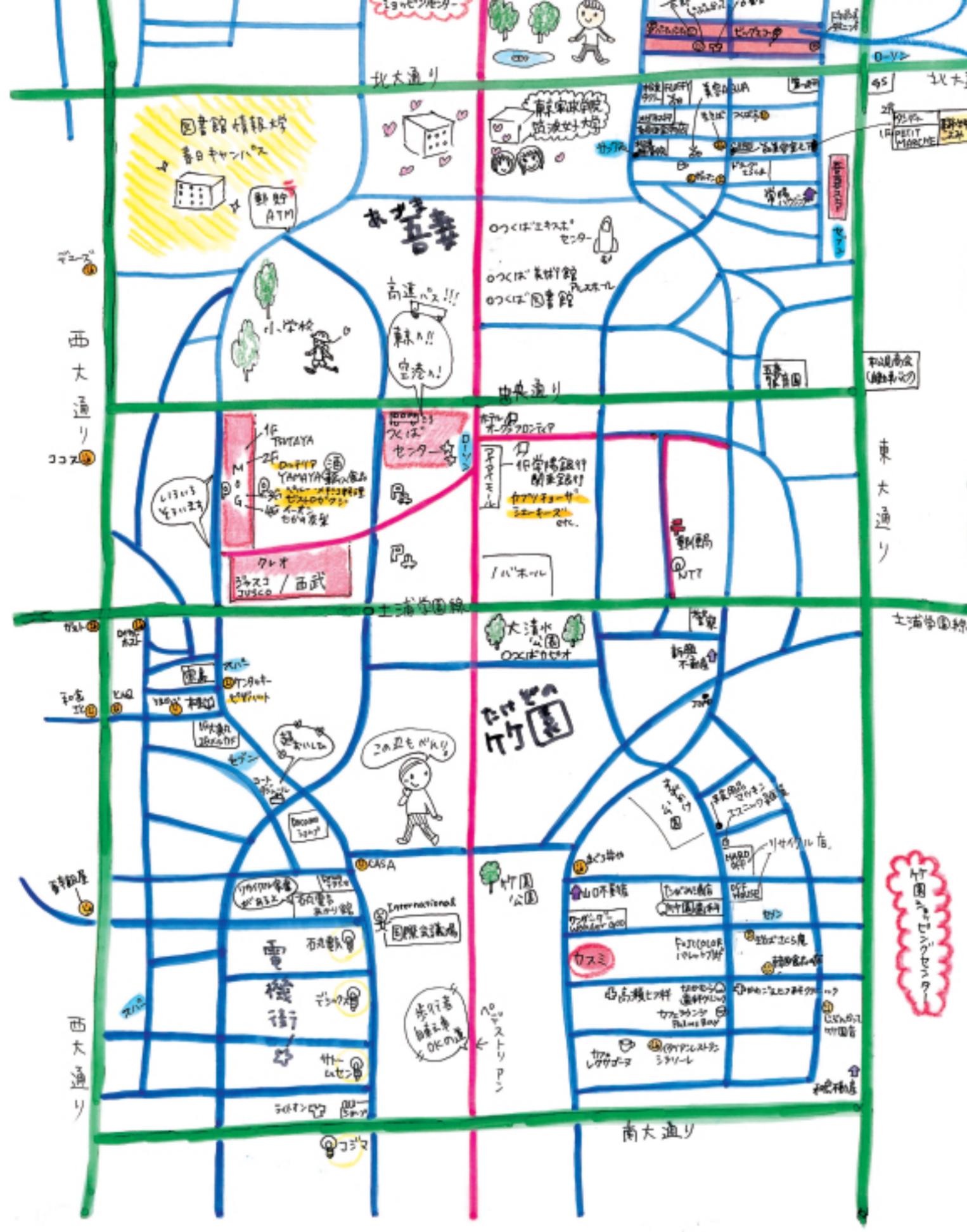
中の生物を採集した経験や、息抜きに氷点下27度の雪中で流しそつめんを行っていた話に40名あまりが熱心に耳を傾けた。

口頭発表に併せて、ポスターセッションも行われた。

受賞者一覧

高橋秀人講師(社会医学系)「日本疫学会奨励賞」 狩野均・助教(電子・情報工学系)「情報処理学会優秀研究報告賞」 黄順姫(社会科学系)「韓国日本学会賞」 金照榮講師(物質工学系)「長弘基(当時理工学研究科2年)」日本MRS奨励賞 赤木和夫教授(優秀論文賞)





つくば大の 周辺地図

'03.4.7

- 木通りに沿ってファミレス等は少
- ☺ 飲食店
 - ☕ カフェ・コーヒー
 - コンビニ
 - 郵便局
 - ↑ 不動産屋さん
- 食べ歩き + 飲み歩き + サイクリング... 昔々歩... 買い物... 自分の足でいろいろ試してみたい。 自転車もよし、徒歩も便利。

竹園の Direction

審議1年6カ月 検討結果まとまる

「筑波大学の将来設計」最終報告(全文)

3月20日の評議会にて報告された将来設計検討委員会最終報告の全文は次の通り。

はじめに

筑波大学将来設計検討委員会(委員長「北原保雄学長」)は、第340回評議会(平成13年9月20日)において設置され、同年10月1日の第1回委員会以降、23回の委員会を開催し、筑波大学の将来設計の策定に向けて1年6カ月にわたり審議を重ねてきた。この間、昨年3月には中間報告を、11月には報告の骨子を評議会に報告するとともに、全

は、実現可能なものは早期に実現を図るべきであるが、検討しなければならぬ事項が多岐にわたっているため、本報告では十分に検討し尽くせなかったところもあり、特に法人化に関する部分については、文部科学省等における国立大学法人関連諸制度に関する検討状況に待つところが多いことから、これらの部分については、本報告を基礎として、今後、具体的な詳細な設計を行う必要がある。

第一部 筑波大学の現状及び課題と改革の方向性

筑波大学の現状

1 大学を取り巻く環境の変化
(1) 高等教育を取り巻く環境は、18歳人口の減少や大学の多様化、さらには高度化・多様化する生涯学習「知的サービス」を通じて、大きく変化しつつある。
(2) 科学技術の飛躍的な進歩や社会の高度化に伴う

中期目標の原案を作成すること、中期計画を作成し、文部科学大臣の認可を受け、更に実施後の評価を受けること、評価結果とともに大学の諸活動の国際競争力が求められ、第三者評価を通して社会への説明責任や活動実績について、結果責任が問われている。
(4) 国立大学の法人化に伴い、競争的環境の中で大学の管理運営に民間的経営の発想を取り入れ、個々の大学の自己責任において、入し、大学は従来のように社会と隔絶した環境で孤高の存在であることが許されず、新たな「知の創造」と「知的サービス」を通じて、直接的に社会へ貢献することが求められている。
(5) 国立大学の法人化に向けて、文部科学省における調査検討会議では、昨年3月26日に、「新しい国立大学法人」像について、国立大学の法人化と教員・事務職員の非公務員化を平成16年度を目途に開始する」との閣議決定が行われている。
(6) 法人化によって大学は、大学としての運営上の裁量の範囲が拡大すること、教育研究組織の設置改廃について柔軟性が増すこと、財務面での機動性、弾力性が強まること、人員配置に関する自主性が強まること、等の意味で自主・自律性が発揮しやすくなる。しかし一方では、大学としての意思決定能力(当事者能力)が問われること、教育研究の効果的な実施が求められること、

2 筑波大学が有する多様な資源

(1) 人的資源・連携資源
筑波大学は、2002年度現在、各学術分野にわたる教員等2200人、事務系・技術系職能集団としての事務局等職員1700人、学群・大学院における学生1万4700人、うち世界各国からの外国人留学生1200人を擁し、これまでに輩出した卒業生・修生は11万2000人(本学前身校及び図書館情報大学を含む)である。
イ 大学の周辺は、筑波研究学園都市という国内でも稀な研究機関の集積地であり、また、これらの研究機関に勤務する研究者など高学歴で知的関心が高い地域住民を多く抱えている。
(2) 教育研究資源
筑波大学は、総合大学であると同時に、体育、芸術、図書館情報という特色ある分野を有している。
イ 学術論文の被引用数が高いこと、日本でもトップクラスであること、海外でも「JSTC」の「BA」のブランドはよく知られている。
ウ 博士課程研究科は、それぞれ複数の学問分野で構成されており、学際的な研究を進めることができる組織になっている。
エ 大学院に学際的な教育を行う独立修士課程を置き、高度専門職業人の育成という先導的な役割を果たしてきた。また、東京キャンパスにおいて、日本で最初の有職社会人のための夜間大学院を開設し、新たな教育市場の開拓に貢献してきた。
オ 開学以来、学群・学類において自由度の高い学際性に富んだ学群教育を推進し、幅広い教養教育が実現している。
(3) 伝統的資源
筑波大学は、常に革新的であり、あらゆる改革を先導的に試みる大学として

筑波大学の課題と改革の方向性

1 教育研究機能と企画評価機能の向上

「知」の時代と言われる21世紀に入り、大学改革をリードする立場にある筑波大学は、新たな「知の創造」と「知的サービス」を通じて、従来以上に社会へ貢献

社会的に認知されている。イノベル賞学者、文化功労者を輩出するなど、物理、化学、工学、文学分野での活躍が著しく、また前身校の東京教育大学以来、教育、農林、体育分野等に伝統的な強さを持っている。さらに近年は、情報、バイオ、ナノ、医学、国際関係の分野の研究において高い評価を得ている。
(4) 地理的資源
筑波大学のメインキャンパスは、世界の先端的研究拠点である筑波研究学園都市に立地し、近在の諸研究機関との人材の相互交流や業務提携等を通じて、科学技術のシーズを基にした大学発ベンチャーのインキュベーション等に極めて適した環境を持っている。
イ 首都圏に近接して立地し、つくばエクスプレスの開業に伴うアクセスの向上が期待される。
ウ 国内における政治、経済、情報の中心である東京の都心に第二キャンパスを持つ。このキャンパスは、筑波大学が社会に開く窓口、例えば産学官連携等の戦略的拠点となる可能性を持つ。
エ 国内における政治、経済、情報の中心である東京の都心に第二キャンパスを持つ。このキャンパスは、筑波大学が社会に開く窓口、例えば産学官連携等の戦略的拠点となる可能性を持つ。
オ 教員の貢献を評価する仕組みも不十分であった。また、多くの組織のそれぞれに教員会議や各種委員会が設置されているために、会議の数も多く、教員の教育研究に充てる時間そのものが圧迫されているという問題点も指摘されている。
今後は、関連する教育組織と学系の連合組織的運営や管理職の専任化及び専決事項の明確化などを推進し、教員の教育研究時間を確保し(サブディカル・リソースを含む)、教育研究機能の向上を図るとともに、企画・評価機能を高め、教育研究に対するインセンティブを教員及び各組織に付与する仕組みを導入する必要がある。
(12面に続く)



2月に完成した総合研究棟A。筑波大学の新しいキャンパスを象徴する。



大学の中央口にあるT字型案内表示棟は、「筑波」「トップを目指す」「30周年」(サーティー)を表している(昨年6月に完成、芸術学系の西川潔教授がデザインした)

2 学群の改組

再編

第一、第一、第三の各学群は、それぞれ基礎、文化・生物、経営・工学分野の教育を担う組織とされ、文系、理系、工学系、農学系に分類される学群が複数集まって構成されている。「文理混合型」の組織である。その結果、それぞれの学群が、一つの「小さな総合大学」といえるものであった。

これらの各学群の学群割を十分発揮できていると、言いがたい状況である。さらに、各学群の名称から、その学群の性格、特色が受ける影響が大きい。また、学群の名称が、その名称が競争力向上の障害となっている面を否定できない。

3 修士課程の改組再編

修士課程は、高度専門職業人の養成と社会人の再教育を目的とし、5年一貫の博士課程が学系にほぼ対応したかたちで設置された。この改組の趣旨は、大学院の多様な発展を推進することである。今後、このような観点から、学系の役割を見直す必要がある。

4 博士課程の見直し

5年一貫制の博士課程は、教育の一貫性、連続性にその長所がある。一方、区分制博士課程では、前期課程を修了する段階で改めて進路の選択を行わせることにより、学生の能力、適性等に応じた進路指導を行うことができる。5年一貫制の博士課程では、その責任を学系に委ねてきたが、ともすると研究面に偏り、さらに、2年以上在学し、修士論文を提出して修士号を取得した後でも、課程を途中で辞めた学生は修了とならず、退学扱いとなり、学生の経歴の点で不利となる事態も生じてきた。また、博士課程は、その目的を大学院等の研究者養成のみならず、高度専門職業人の養成とすることができ、その改正が行われている。この改正の趣旨は、大学院の多様な発展を推進することである。今後、このような観点から、学系の役割を見直す必要がある。

第一部 筑波大学の将来設計

筑波大学の目標

1 基本目標

筑波大学が個性豊かで輝く大学となるためには、筑波大学の特色・強みを前面に押し出し、それらを一層豊かにすることが大切である。このような特色には、学系的なものや各分野におけるものがあり、それらを全学的視点から推進すると、事業の展開等を格段に推進することができる。以下、8項目を、本学の今後10年間の基本目標とする。

(1) 教育研究等において、国際レベルの競争力を一層高める。

(2) 広い視野、豊かな人間性及び専門分野に関する確かな基礎学力を備えた人材を育成する。

(3) 深い専門性に裏付けられた独創性と柔軟性を兼ね備えた研究者を養成する。

(4) グローバルな視野と

2 教育の目標

深い専門性を併せ持つ高度専門職業人を養成する。

(2) 大学院においては、深い専門性に裏付けられた独創性と柔軟性を兼ね備えた研究者と、グローバルな視野と深い専門性を併せ持つ有為な高度専門職業人を養成する。

(3) 学群及び大学院のそれぞれに教育目標達成を追求しつつ、相互の連携と接続にも配慮する。

(4) 学術文化の継承と発展及び新しい科学技術の創造のために、国内外から高い評価が得られる研究成果を産み出すことを目指す。また、人類が直面する課題を解決

3 研究の目標

有為な人材の育成や研究成果の創出など、教育研究を通じて社会に貢献することに加え、国際社会、地域社会、産業界との連携により、社会的要請を取り入れるとともに、本学の知的成果を積極的に社会へ還元する。

(13面に続く)

5 学系の改組再編

学系は、研究組織であるとともに教員の所属組織とされ、比較的狭い研究領域別に設置されて、開学以来

6 センターの改組再編

本学には、共同利用のための各種センターが設置され、全学的教育研究活動を円滑にするための機能としてきた。これらのセンターをその機能に即して観ると、教育に関する共同利用のもの、研究に関する共同利用のもの、教育研究の両面を



法人化に向けた 制度設計

1 全学の意志決定機関、審議機関等

(下図参照)

2 中期目標・中期計画等

中期目標・計画及び年度計画については、文部科学省のガイドラインに沿って引き続き検討するが、中期計画にあつては可能な限り具体的数値目標を盛り込んだ計画を策定する。

3 評価システム

(1) 評価の目的は、本学としての個人及び組織の自発的かつ自覚的に、適切な目標を設定し、その達成に向けてアクティビティを向上させること、大

4 資源配分

(1) 各組織のアクティビティを積極的に評価し、組織の改善・発展を促進させるため、学内資源配分(教職員定員、予算、スペース)及び組織の新設・改廃を検討するに当たつて、

5 勤務条件、職務等の取扱い

(1) 給与基準、勤務時間・サービスなど教職員の勤務条件については、移行時にあつては、基本的に国家公務員に準じた取扱いとする。

6 財務会計

(1) 国立大学法人会計基準(仮称)に基づき財務会計システムを構築する。

7 附属学校

(1) 学校教育部を附属学校の管理機関とする。

8 附属病院

(1) 附属病院における教育資源の効率化を図り、教育・研修を体系的に実施する。

大学本部が最終的に行う評価(第2次評価)から構成する。大学本部が評価を行う際には、当該組織から意見を聴くとともに、関係学系から意見を求めることができる。

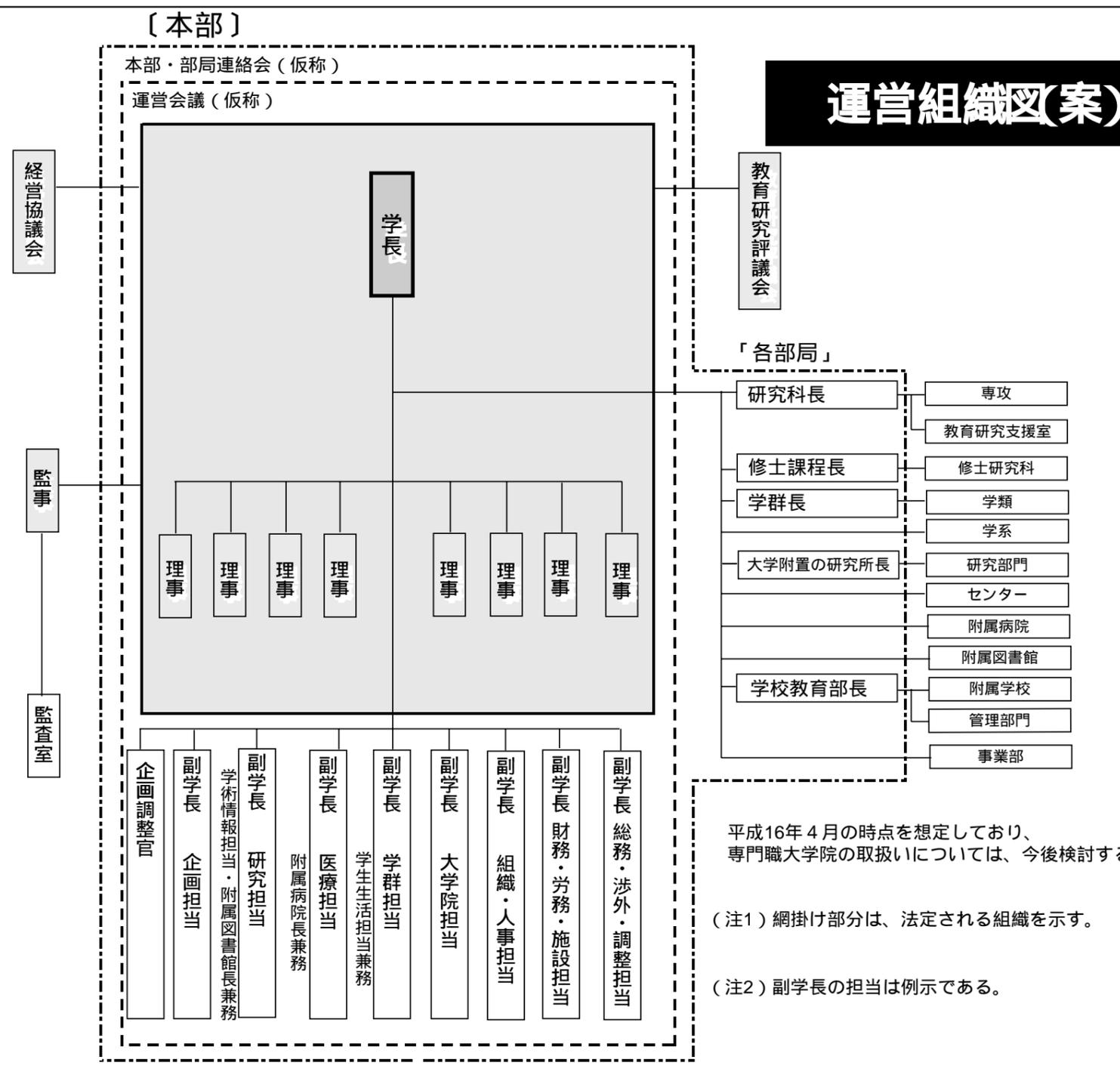
一部に光熱水料、スペースについては受益者負担の導入を図る。外部資金の導入については、給付と体系の一部に年俸制を導入することを検討する。

医療サービスの向上により経営を改善する。

おわりに

筑波大学の発展を期すため、全学的な運営基盤の強化に焦点を置いて審議を行う。今後、この将来に輝く筑波大学の実現に向けて邁進しなければならぬ。設計の内容を踏まえ、本学の諸組織構成員がすべて

運営組織図(案)



平成16年4月の時点想定しており、専門職大学院の取扱いについては、今後検討する。

(注1) 網掛け部分は、法定される組織を示す。

(注2) 副学長の担当は例示である。

元J2水戸ホーリーホックDF、本学院生

蹴球部に30歳監督

山中教授から木山氏へ

プロ見据える指導に期待



サッカー
 昨年のインカレ優勝で日本一のタイトルを手にした蹴球部に、30歳の新監督が誕生した。山中邦夫教授(体育科学系)から、元JリーグのDFで、現在体育研究科に在籍する木山隆之氏にバトンタッチ。蹴球部が新たな時代を迎える。

木山新監督は平成6年度体育専門学群を卒業後、ガンバ大阪、コンサドーレ札幌を経て、昨年夏まで水戸ホーリーホックに在籍した。3年前から本学大学院で指導理論を学んでいる。「元Jリーガーという経験を生かし、プロを目指す選手の立場で、指導できる」と木山氏を推した松本光弘部長(同)の推薦理由だ。蹴球部が以前から水戸と練習試合をしていた縁もあって話はずみで進んだ。院長が監督に就任するのは初めてだ。

グラウンドでは、活発に動き回り、選手を指導する。

「下を向かず自分を信じて進んで欲しい」と現役時代にシーズンに足を2回も骨折した経験から、熱い思いを伝える。FWの町田多聞(体育4年)が「年が近く身近に感じます」と言っている。学生の評判も高い。木山氏は「責任は重い、強い蹴球部を作り上げます」と抱負を語った。

歴史築いた 山中前監督
 大学サッカーの頂点に立った直後、突然の監督交代劇だった。「監督は、常にチームの状態を把握している必要がある。大学での仕事が多いなか、時間的・体的に、難しくなった」と山中前監督は話す。

後任に選ばれたのは、監督経験がない木山氏。重圧が、頭をよぎった。それでも、蹴球部には、伝統が作り上げた集団運営のシステムがある。たまた前監督一人の交代では崩れない」と山中監督は決断した。

12月3日にわたって14年間監督を務めた、16人の選手をJリーグに送り出した。監督生活の中で、最も印象に残っている選手を尋ねると、真先に井原正巳、中山雅史の名を挙げた。「2人とも、ものすごい努力家だった。木山新監督には、納得のいく方法でチームを引っ張って欲しい」とエールを送る。グラウンドを去っても、蹴球部を見守り続ける。



岡田監督とF・マリノス

岡田武史監督率いるJリーグの横浜F・マリノスが2月18日、本学の野外運動実習場「野性の森」で、アウトドアトレーニングを行った。レギュラーを含む選手28人、スタッフ13人が参加し、飯田教授(体育科学系)と研究室の学生7人が指導に当たった。

プロのチームが野性の森でトレーニングを行うのは2度目。飯田教授とかねてから親交を持つ岡田監督は、3年前にもコンサドーレ札幌を率いて利用した。トレーニングは3時間行われた。選手は7人ずつ4グループに分かれ、野性の森の施設を利用した課題に挑戦する。課題は7つあり、どれも1人で解決できない設定だ。メンバーと協力して解決して



選手とともにグラウンドに出て指導する木山監督(第1サッカー場で)

高松がパリ国際で優勝

世界選手権出場へ望み



柔道

2月8、9の両日に行われたパリ国際大会には男子73キロ級に高松正裕(体育4年)、女子52キロ級に佐藤愛子(同2年)が出場し、高松は優勝、佐藤は3位と好成績を残した。高松は、この優勝で大阪で開かれる世界選手権出場へ望みをつ

また、2月22、23の両日に行われたドイツ国際大会には63キロ級に谷本歩実(同4年)が出場したが、惜しくも準優勝に終わった。その他の入賞選手は次の通り。

ハンガリー国際大会(2月15、16日)81キロ級・小野卓志(当時体育4年)＝5位入賞
 オーストリア国際大会(2月22、23日)78キロ級・長瀬めぐみ(同3年)＝5位入賞

高安、短水路で日本新



水泳

男子100メートルバタフライ

神奈川県の相模原市立総合水泳場で行われた。男子100メートルバタフライに出場した高安亮(体育4年)が、自身の記録を2年ぶりに0秒22更新する51秒55の日本新記録を出した。

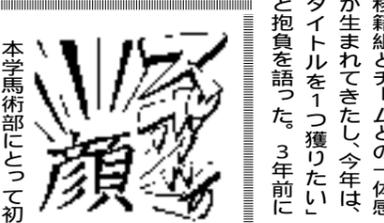
高安はスタートから積極的に飛ばし、後続をリード。下山好亮コーチ(体育センター)も絶賛する。「世界

にびつくりした」と話す。3期にわたって14年間監督を務めた、16人の選手をJリーグに送り出した。監督生活の中で、最も印象に残っている選手を尋ねると、真先に井原正巳、中山雅史の名を挙げた。「2人とも、ものすごい努力家だった。木山新監督には、納得のいく方法でチームを引っ張って欲しい」とエールを送る。グラウンドを去っても、蹴球部を見守り続ける。

野性の森で悪戦苦闘

飯田教授は「Jリーグ開幕前のこの時期、時間はながい、練習をひたすら続けるよりもこうしたトレーニングを行う方がチームにとって効果的」と話している。

飯田教授は「Jリーグ開幕前のこの時期、時間はながい、練習をひたすら続けるよりもこうしたトレーニングを行う方がチームにとって効果的」と話している。



馬術部 池田哲朗選手(人文4年)

馬術部 池田哲朗選手(人文4年)

池田選手が馬術を始め、大学に入ってから、動物と触れあえるサークルに、と思い、馬術部に体験入部、これしかない」と入部を決めた。週6日の練習は、想像

馬術部では2種類のうち、希望する競技を選ぶ。池田選手は「ハードルを飛び越え、タイムを競う」という競技性の強さに惹かれた。と障害飛躍の魅力

「馬の故障を少なくするために、馬の筋肉がやわらかい方がいい。いい状態で馬を後輩に引き継ぐことが課題、馬の体を大事にしながら乗っていきたいですね」と後輩を思いやる主将の表情を見せる。

馬術は今後も乗馬クラブなどで、続けたいと言った。池田選手を引きつけた馬術の魅力は、卒業後も色あせることがないよう

日本人初の金メダル

障害者ノルディック世界選手権 前年から前に飛び出していた。5キロ地点をトップから3秒差の2位で通過。後半追いついて逆転、2位に20秒の差をつけて優勝を果たした。

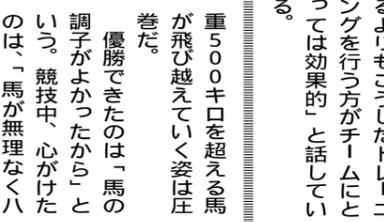
ソルトレックパラリンピックでの銅メダル獲得から1年。新田は「3位から1位にステップアップでき、トリノ大会への思いはより強くなった。もう一度気を引き締めて頑張りたい」と語った。

新田は現在アディダスジャパンに所属し、トレーニングを積んでいる。

記録ファイル

第42回大阪国際招待卓球選手権大会(2月15、16日・大阪府立体育会館) 日・大阪府立体育会館) 男子ダブルス 高森英郎(当時体育4年)・熊田智幸(当時同社大4年)＝優勝 男子シングルス 高森英郎 3位 森英郎 3位 東京卓球選手権大会(3月12、16日・東京体育館) 男子シングルス 高森英郎 3位 男子ダブルス 高森英郎 3位

第51回勝田全国マラソン(2月11日、ひたちなか市) 男子39歳以下10キロの部 鐘ヶ江幸治(工シス3年・陸上部) 30分6秒＝優勝



馬術部 池田哲朗選手(人文4年)

馬術部 池田哲朗選手(人文4年)

池田選手が馬術を始め、大学に入ってから、動物と触れあえるサークルに、と思い、馬術部に体験入部、これしかない」と入部を決めた。週6日の練習は、想像

馬術部では2種類のうち、希望する競技を選ぶ。池田選手は「ハードルを飛び越え、タイムを競う」という競技性の強さに惹かれた。と障害飛躍の魅力

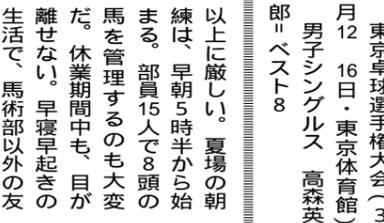


馬術部 池田哲朗選手(人文4年)

人馬一体に魅かれて

馬術は今後も乗馬クラブなどで、続けたいと言った。池田選手を引きつけた馬術の魅力は、卒業後も色あせることがないよう

馬術は今後も乗馬クラブなどで、続けたいと言った。池田選手を引きつけた馬術の魅力は、卒業後も色あせることがないよう



馬術部 池田哲朗選手(人文4年)

人馬一体に魅かれて

馬術は今後も乗馬クラブなどで、続けたいと言った。池田選手を引きつけた馬術の魅力は、卒業後も色あせることがないよう

馬術は今後も乗馬クラブなどで、続けたいと言った。池田選手を引きつけた馬術の魅力は、卒業後も色あせることがないよう

馬術は今後も乗馬クラブなどで、続けたいと言った。池田選手を引きつけた馬術の魅力は、卒業後も色あせることがないよう

馬術は今後も乗馬クラブなどで、続けたいと言った。池田選手を引きつけた馬術の魅力は、卒業後も色あせることがないよう

記録ファイル

第42回大阪国際招待卓球選手権大会(2月15、16日・大阪府立体育会館) 日・大阪府立体育会館) 男子ダブルス 高森英郎(当時体育4年)・熊田智幸(当時同社大4年)＝優勝 男子シングルス 高森英郎 3位 森英郎 3位 東京卓球選手権大会(3月12、16日・東京体育館) 男子シングルス 高森英郎 3位 男子ダブルス 高森英郎 3位

第51回勝田全国マラソン(2月11日、ひたちなか市) 男子39歳以下10キロの部 鐘ヶ江幸治(工シス3年・陸上部) 30分6秒＝優勝

Who's Who?



5つめの大学に通うタフな国際人

キム ミン スン 金 旻 宣 さん(短期留学生)

「サン」だ。昨年9月から、本学に短期留学し、日本語や国際関係学を学んでいる。サンは、これまで世界を転々としてきた。韓国

文化の違いを実感 韓国のため国連へ

高校から韓国へ戻った。ソウルの大学に進学したが、2年次になって、今度は自らの意思で、韓

教育を求め、ニューヨーク大学へ編入。さらに1年後、コロラド大学に編入した。現在も同大学に在籍しながら本学へ短期留学中だ。

母国語の韓国語はもちろん、フランス語、英語を自由に話し、今、4つ目の言語となる日本語の習得に奮闘している金旻宣さん(23)。愛称は「サン」だ。

痛いやが飛び出して、アメリカの大学では、1週間に2、3回のレポートは当たり前、勉強しなければならぬ。筑波では授業中に寝ている学生や、欠席する学生がしばしば見られる。アメリカやカナダでは考えられないことだ。

逆、「サークルやバイトには、日本人学生の方が熱心で、アクティビティが感じられる。友人や上下関係の仲が親密な点は、うらやましい」という。このあたり、いくつもの「大学の文化の違い」を知るサンならではの観察だ。

留学生が多い本学において、「韓国人である」とは、欧米人に比べ、同じアジア人として「日本語ができて当たり前」というプレッシャーがある

入構証 各窓口で申請を 期間は18日まで

駐車証の交付申請書が配布されている。申請期間は、14日から18日まで。構内の駐車場利用者は教育研究支援室で、宿舎用駐車場利用者は居住する各学生宿舎管理事務室で受け付ける。なお、所属する各支援室から半径2・5キロ未満の地域と宿舎地区に住む学生は自動車通学が禁止されており、駐車証の交付を受けることができない。

申請には、交付申請書、水道や電気、ガス料金の利用者は年間1万8000円、一般駐車場は同4800円を会費として支払う。今年度から郵便振り込みのほか、銀行振り込みでも可能になった。

さらに、ゲート付き駐車場の利用者は、バスカード600円も負担する。昨年度の利用者は、バスカードを一度返却しなくてはならないが、無料で新しいバスカードが交付される。

参加団体を募集 やどかり祭

今年の筑波大学宿舎祭(やどかり祭)は、5月30、31の両日(雨天時は6月1日に延期)に行われる。宿舎祭実行委員会は、宿舎祭を通して図書館情報専門学群、看護・医療科学類との交流を目指している。

このため例年、1年生が2つの企画パレード中に

主な参加者だったが、今年からは全学年を対象にする予定だ。

体力測定、10日から

4月10日から5月6日にかけて、体力測定が総合体育館で実施される。新入生は健康診断の後、午前9時半から11時半まで、午後は1時から3時まで行われる。必修の体育を選択している2、3、4年生は体育の授業で行われる。

詳しくは4月上旬に各教育研究支援室をはじめ、平砂、追越、一の矢共用棟の掲示板で提示される。申し込みは例年5月上旬に締め切る。連絡先は、eメール 029-853-2410(田中謙次委員長・工基3年)

日程の確認を

平成15年度の学生定期健康診断が4月9日から25日にかけて行われる。決められた日時に学生証を持って、大学会館ホールに集まる。

受付時間は、午前が9時から10時半まで、午後は1時から2時半(1年生は午前9時〜午後1時)まで。

なお、図書館情報専門学群1年生は春日キャンパス講堂に9時集合(2年次以上は春日キャンパス講義棟玄関1階)。

健康診断日程表(数字は学年)

実施日	受付時間	第一学群			第二学群			第三学群			体育	芸術	医学専門学群	
		人文	社会	自然	比文	日・日人間	生物	資源	社工	国際			情報	工シ
4月9日	午前 午後	4 3	4 3	4 3	3 3	4 4	4 4	4 3	4 3	4 3	4 3	3	4	4
4月10日	午前 午後	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	4	4	4
4月11日	午前 午後				2	2	2	2	2	2	2	3	3	2
4月14日	午前 午後			2		2	2	2	2	2	2	2	2	2,3
4月15日	午前 午後													
4月16日	午前 午後													
4月17日	午前 午後				1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
4月18日	午前 午後													
4月21日	午前 午後													

図情1年生と図情大3年生は25日の午前、図情大2、4年生とメディア研究科1年、図情大学院生は同日午後

次号は
5月12日(月)
発行予定です

新しいこと始めてみよう



文章は自信ないけど取材してみたい。
普通のサークルじゃ物足りない。
マスコミ関係に興味がある。
パソコンが得意。 写真を撮るのが得意。
有名人に会ってみたい。
大学に詳しくなりたい。

筑波大学新聞では、新入部員を募集しています。

お気軽に編集室に来てみて下さい。

編集会議：火曜日午後6時30分から

編集室：共同研究棟A-104

電話：029-853-6699

e-Mail：shinbun@sakura.cc.tsukuba.ac.jp